

# 臨床学

*Royal Touch* 整体スクール

院長 奥居 太郎

## ～ 臨床学 ～

### 1. 問診と診察

適切な施術を行い、健康状態に復帰させるには、正しい問診と診察が必要です。

その際、精神的・肉体的異常を的確に把握するために、お客さまのプライバシーに接することが少なくないため、常に真摯な態度を忘れず、温かみのある親切な対応で、信頼と尊敬を得るように心がけなければなりません。

#### 1) 問診

お客さまの訴える症状を聞くだけでなく、状態や原因を正確に把握します。

##### ①患者像および社会歴

氏名・年齢・性別や生活環境・仕事内容を把握します。

##### ②主訴

治療院を訪れる直接の動機です。“肩がこる”などの主訴に対して、細かくどこがどのように辛いのか、シビレなどはあるか、いつからか、原因などを把握します。

##### ③既往歴

現在に至るまでに経験した、病気・事故・ケガなどについて把握します。

##### ④家族歴

高血圧・糖尿病・アレルギー性疾患・奇形など家族内発症のみられやすいものを把握します。

#### 2) 診察

問診に引き続いて、身体の診察を行います。

##### ①見る

外見的特徴を把握します。

例: 背が高い・太っている・メガネをかけている・ハイヒールを履いているなど

##### ②観る

外見的特徴とともに、振る舞いや言動などを観察します。

例: 前かがみである・左利きである・赤ら顔である・おどおどしている・

跛行(歩行異常)がある・カバンを左で持っている・右肩が下がっているなど

### ③診る

患者の身体に触れ、体温・筋肉・骨・関節などの状態を把握します。

例：熱感や冷感がある・筋肉の過緊張や硬結がある・圧痛がある・  
関節の可動域に異常があるなど

## 2. テスト

### ①ラセーグテスト

仰臥位にて、片側の下肢を膝を伸ばしたまま挙上させます。正常な人では90度まで上がります。途中で大腿後面に引きつるような痛みが起こり、かつ角度が30度以下しか上げられない場合、陽性とします。

陽性：坐骨神経痛

### ②パトリックテスト

仰臥位にて、片側の下肢を屈曲させて、もう片側の膝蓋骨上に4の字になるように置きます。そして、曲げた方の下肢を床につけるように押し下げます。外転制限や股関節に痛みが起こる場合、陽性とします。

陽性：股関節疾患、腸腰筋痙縮、仙腸関節疾患

### ③スパーリングテスト

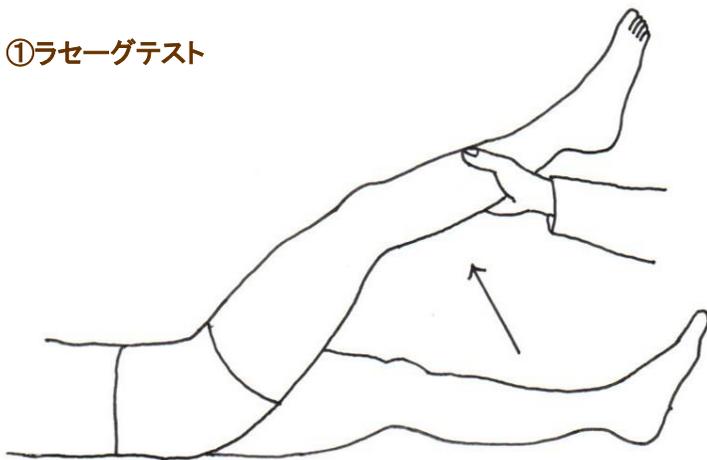
座位にて、顔を正面・右向き・左向きの各状態で、頭頂を両手掌にて下方に垂直圧をかけます。頸部・肩・上肢などに疼痛やシビレ感を生じた場合、陽性とします。

陽性：頸部椎間板ヘルニアなどの脊髄圧迫障害

### ④スプリングテスト

伏臥位にて、脊椎に対し一椎ずつ軽く垂直圧をかけます。弾力がなく、しずまない場合は関節の変位を生じています。ただし強く押すと結果を得にくくなるので、微妙な力加減が必要です。

①ラセーグテスト



②パトリックテスト



③スパーリングテスト



### 3. 各部位の疾患

#### 1) 頸肩腕症候群

##### ①肩こり、首こり

**原因** 骨格の異常や筋の過緊張により、循環障害を起こすことにより生じます。内臓疾患等による反射も考えられます。

**症状** 頸部・肩・背部の疼痛、重圧感、緊張感を生じます。

**施術法** 関連筋を十分にほぐし、脊柱や骨盤の骨格異常があれば調整します。

##### ②寝違い

**原因** 多くは就寝中、偏った寝方をしたり冷えたりして、筋を硬直させてしまうことで生じます。また、慢性的な肩こりなどが筋を硬直しやすい状態にさせることが多いです。

**症状** 頸部より肩・背部にかけての疼痛、運動障害を生じます。

**施術法** 圧痛を感じる部位は触れず、関連筋を丁寧に弛める。頸椎のズレを静かに調整し、術後は安静にさせます。

状態によっては、操体法も有効です。

##### ③頸椎捻挫(ムチ打ちなど)

**原因** 自動車の乗車中に急停止、追突などで、頸椎が過伸展・屈曲し、頸部の筋や靭帯を損傷することにより生じます。

**症状** 頭痛、頸部・肩・背部・上肢の疼痛、シビレなどを生じます。耳鳴りなどの自律神経障害を合併することもあり、脊髄損傷にいたることもあります。

**施術法** 圧痛を感じる部位は触れず、関連筋を丁寧に弛めます。頸椎を静かにけん引し、術後は安静にさせます。

##### ④肩関節周囲炎(いわゆる四・五十肩)

**原因** 回旋腱板の損傷、石灰化などにより、肩関節の運動制限を生じます。

**症状** 肩甲部の疼痛、肩関節の運動制限、上肢帯の筋の萎縮などを生じます。

**施術法** 関連筋を十分にほぐした後、肩関節の運動法をゆっくりと行います。運動制限がひどい場合などは、操体法を試みます。

### ⑤胸郭出口症候群

- 原因** 神経血管束が、前斜角筋と中斜角筋の緊張異常により圧迫を受けるものを**斜角筋症候群**、先天的に C7 が異常に長い(頸肋)場合に圧迫を生じるものを**頸肋症候群**、鎖骨・第 1 肋骨間が狭いために圧迫を受けるものを**肋鎖症候群**といいます。
- 症状** 頸部や上肢の知覚障害、疼痛、手指の冷感などを生じます。
- 施術法** 斜角筋を中心に関連筋を十分にほぐし、神経血管束の刺激、肋鎖間を広げる運動法を行います。

### ⑥頸部椎間板ヘルニア

- 原因** 椎間板の退行変性により、神経根や脊髄を圧迫して生じます。
- 症状** 頸部の運動制限・疼痛、肩から上肢への放散痛・シビレなどを生じます。下肢の知覚障害や歩行障害を生じることもあります。
- 施術法** 頸部、肩の筋を十分にほぐし、頸椎の調整、ストレッチを行います。

### ⑦後縦靭帯骨化症

- 原因** 頸椎後縦靭帯の石灰化、骨化により脊柱間の狭窄を生じ、脊髄圧迫障害を生じます。
- 症状** 上肢の痛み、シビレ、運動障害。下肢の痙性麻痺、知覚障害、膀胱直腸障害などを生じます。
- 施術法** 頸部の筋を十分にほぐし、頸椎のけん引、椎間を広げる運動法を行います。指定難病なのでくれぐれも慎重に対処します。

## 2)腰痛、坐骨神経症候群

### ①いわゆる腰痛

- 原因** 骨格の異常や筋の過緊張により、循環障害や炎症をおこすことにより生じます。内臓疾患等による反射も考えられる。②以下の各疾患にもよります。
- 症状** 背部・腰部の重圧感、緊張感、疼痛を生じます。
- 施術法** 関連筋を十分にほぐし、脊柱や骨盤の骨格異常があれば調整します。

### ②坐骨神経痛

- 原因** 坐骨神経痛は種々の疾患の一症状としておこります。腰椎椎間板ヘルニア、変形性腰椎症、脊椎すべり症、腰椎カリエス(感染症)、筋炎などによります。
- 症状** 腰部・臀部・下肢(おもに坐骨神経に沿って)の疼痛、シビレを生じます。ラセーグ兆候がみられます。

施術法 腰部・臀部・下肢を十分にほぐし、特に坐骨神経に沿って押圧刺激を行う。必要であれば骨盤調整を行います。

### ③腰椎椎間板ヘルニア

原因 腰椎椎間板の退行変性により、神経根や脊髄を圧迫して生じます。  
 症状 腰痛、坐骨神経痛を生じ、症状が重いと疼痛やしびれが臀部から大腿後面、下腿後面、足先まで放散します。ラセーグ兆候が大多数に見られます。  
 施術法 背・腰部・臀部・下肢を十分にほぐし、臀部・膝窩への坐骨神経刺激、腰椎の調整およびストレッチなどによるけん引を行います。

### ④脊柱管狭窄症

原因 脊柱管周辺の骨や軟部組織の肥厚によって、脊柱管が狭くなり、神経を圧迫して生じます。  
 症状 腰痛があり、動くときと増強し、安静により軽快する。特に歩行時の疼痛は、歩行を中止してかがみこんだり、前かがみで休むと軽快します。直立時では軽快しない。坐骨神経痛を生じることもあります。  
 施術法 関連筋を十分にほぐし、坐骨神経の緊張を弛めます。対処療法にとどまります。

## 3)その他の疾患

### ①便秘症

原因 様々であるが、運動不足による筋力の低下、排便習慣の欠如、腹壁圧の減退、水分の摂取不足、ストレスなどにより生じます。  
 症状 排便困難、腹痛を生じます。  
 施術法 腹部を十分にほぐします。腰部、下肢をほぐし骨盤調整(仙腸関節)、仙骨刺激により肛門括約筋の緊張を弛めます。

### ②生理痛

原因 骨盤のゆがみなどにより、子宮の位置が正常でない場合や、ストレスなどによりホルモンのバランスが悪くなると生じます。  
 症状 腰痛、腹痛のほか、自律神経失調による頭痛などの諸症状を生じます。  
 施術法 腰部・臀部・下肢の各筋をほぐした後、骨盤調整を行います。あわせて仙骨への神経刺激、頸部をほぐし脳下垂体および視床下部の働きを助けます。

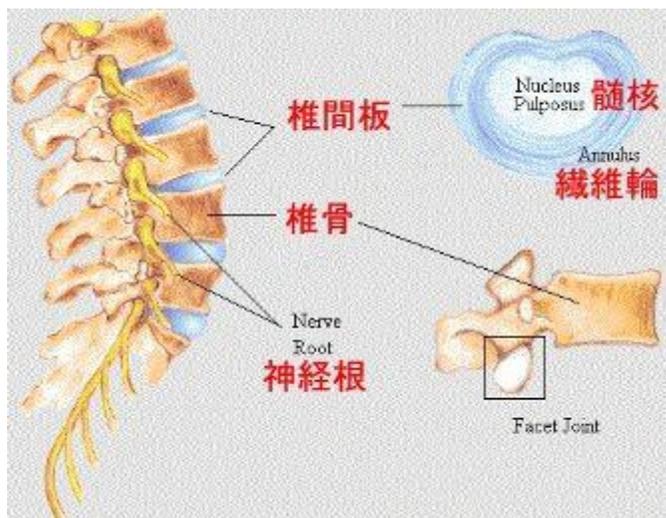
### ③胃 炎

原因	急性胃炎は、急激なストレスや刺激の強い飲食物の摂取などによる胃粘膜の炎症です。慢性胃炎は急性胃炎の原因が持続したり、他の疾患による血行不良が原因となります。
症状	胃の膨満感、嘔吐、むねやけ、上腹部痛を生じます。
施術法	Th4～7 を触診して、過敏な反応があった部位に対して、椎間刺激を行います。ズレがあれば矯正します。また腹部の筋も十分に弛めます。

## ■椎間板ヘルニアについて

人間の背骨は24個の骨で構成されています。

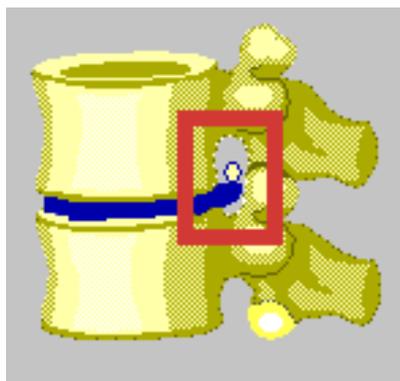
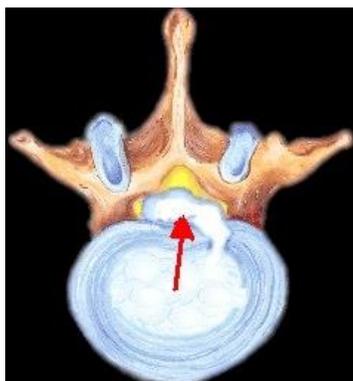
そして、骨と骨の間にはクッションの役割をはたす「椎間板」とよばれる軟骨が存在します。さらに椎間板は 線維輪(周辺の硬い部分)と、髄核(中心部分)で構成されています。



ヘルニアとは、臓器の一部が本来あるべき腔から逸脱した状態です。

つまり、椎間板ヘルニアとは、圧迫などにより椎間板自体が椎骨の外へ飛び出し(膨れ)たり繊維輪に亀裂が生じ、髄核が繊維輪を破って飛び出してしまう事を椎間板ヘルニアと言います。

飛び出した(膨れた)椎間板が神経などを圧迫する事により、激しい痛みや痺れなどの症状を引き起こします。



## ■椎間板ヘルニアの症状

臀深部から大腿後面、下腿、足の、坐骨神経の経路や支配領域に、激痛や神経異常を訴えることが多いです。

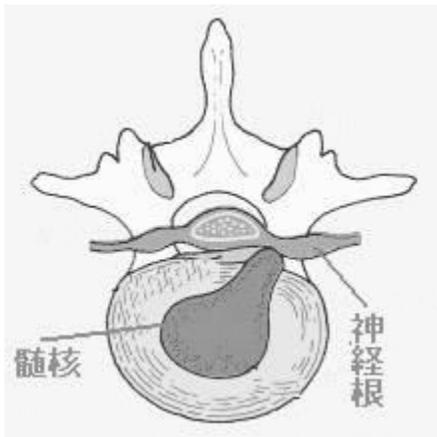
立っていても、座っていても、同じ姿勢を長時間つづけることが難しく、前かがみになると痛みが強くなる傾向があります。

- ・坐骨神経痛
- ・腰痛
- ・腰から足先にかけてしびれや痛み
- ・感覚障害
- ・冷感
- ・筋力の低下
- ・重度の場合、便秘や排尿障害なども

## ■椎間板ヘルニアの症状

椎間板ヘルニアには、大きく2つのタイプがあります。

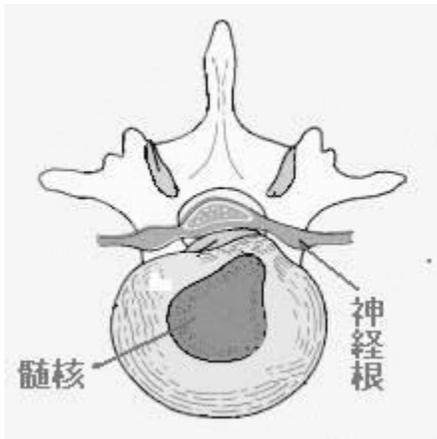
脱出型



膨隆型

### ■脱出型

線維輪に亀裂(ヒビ)が入り、そこから中の髓核が線維輪を飛び出します。比較的短期間で症状が回復しやすいです。



### ■ 膨隆型

線維輪に亀裂が無く、  
髄核が線維輪から飛び出さず、  
髄核と線維輪と一緒に膨れ出ます。  
症状が長引くことが多いです。

## ■ 神経根の圧迫状況と、体の傾き・痛みとの関係

内側・外側、どちらから神経根が圧迫されるかによって、体の傾きが現れます。これは、体が痛みを回避するために無意識に現れ、ヘルニアの状態を推察する手助けになります。

### ■ 外側性ヘルニア

神経根の外側を圧迫するため、体は痛みと反対側に傾きます。

(体を痛む側の反対側に傾けると痛みが和らぐため)

### ■ 内側性ヘルニア

神経根の内側を圧迫するため、体は痛む側へと傾きます。

(体を痛む側に傾けると痛みが和らぐ)

### ■ 中心性ヘルニア

椎間板が真後ろ(中心)に向かって脱出(膨らむ)為、背髄神経本体を圧迫するもので腰を丸めた状態で痛みが増します。

## ■ 椎間板ヘルニアの原因

椎間板ヘルニアになる原因として、下記のものがよく挙げられます。

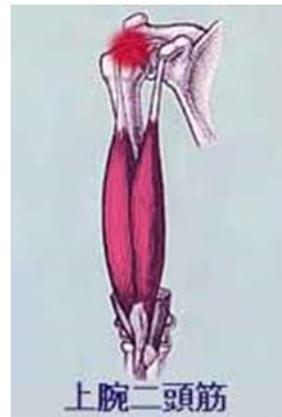
- ・姿勢の悪さからくる骨盤の歪み(本来の脊椎の前後左右の湾曲でないなど)
- ・日常生活での動作(重い物を持った、長時間の運転、くしゃみなど)
- ・椎間板の老化(弾力性が衰え、衝撃や圧迫に耐えられない)
- ・骨の老化(加齢や骨粗しょう症など)

## ■肩関節周囲炎（いわゆる四十肩・五十肩）

いわゆる四十肩・五十肩は、肩関節の周囲の靭帯や腱、関節包、滑液包、骨、軟骨など、肩関節を構成する組織に炎症が起きることで、強い痛みや拘縮(運動制限)につながります。はっきりとした原因がないことが多いです。

## ■肩関節周囲炎の主な種類

- ・烏口突起炎
- ・上腕二頭筋長頭腱炎
- ・肩峰下滑液包炎
- ・肩腱板炎・回旋筋腱板炎(変性性、外傷性)
- ・石灰沈着性腱板炎
- ・肩関節拘縮(拘縮肩)
- ・関節包炎
- ・凍結肩
- ・肩鎖関節炎
- ・腱板疎部炎 など



## ■肩関節周囲炎の主な原因

肩周りの筋力の低下もありますが、背筋群(身体を反らす筋肉)の筋力低下により、拮抗筋である身体を前に倒す筋肉が優位に働き、身体全体が丸くなって(猫背)、肩が前に出てきます(巻き肩)。これにより胸の前の筋肉(大胸筋など)の緊張が強くなり肩の動きが制限されます。

外傷がきっかけになることもあります。また運動不足などによる筋力の低下や、柔軟性の欠如等も原因になります。

## ■肩関節周囲炎になったら

- 急性期 動かさなくても痛む時や、肩周辺に熱感がある時は、基本的には冷やして、できるだけ動かさずに安静にします。
- 慢性期 多少でも動かせる場合は、肩をなるべく冷やさないようにして、無理をしない範囲で動かす必要があります。痛いから動かさないでいると肩周辺の筋力が落ちてしまい、回復が遅れます。お風呂の中で肩をゆっくり動かしたりするのがよいでしょう。

筋力の低下による場合が多いため、すぐには改善しないことも多いですが、マッサージや鍼などの治療をする事により、痛みが軽減し治りも早くなります。

肩の痛みをかばっていると、肩を前にだし背中が丸くなってきて、体全体のバランスが悪くなって、首の凝りや痛みなど他の症状も出てきますので、肩だけの部分的な治療だけでなく、全身のバランスを調整すると、より速く肩の痛みを軽減させる事が出来ます。

但し、石灰化腱炎の場合は注意が必要ですので、医師の診断を元に施術を行っていく必要があります。